大学教育における歌唱教材の総合的指導法：歌唱指導法、伴奏法の両面から

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 良一, 谷川, マユコ, Tanaka, Ryoichi, Tanigawa, Mayuko メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/761

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



教職課程年報　第２号　2017 年度

実践研究報告

大学教育における歌唱教材の総合的指導法

―歌唱指導法・伴奏法の両面から―

田中良一　　谷川マユコ
Ryoichi Tanaka　　Mayuko Tanigawa

はじめに

本学の教職課程の教科に関わる科目には「教職伴奏法」「即興伴奏法」「合唱活動指導法」等の様々な科目があるが、「教職ピアノ実習」を除き、多くの科目では歌唱と伴奏とを別々に指導を受けることが多い。音楽科教育の現場では、それらを統合して指導をしなければならない。

本論文は学生アンケートを参考に歌唱法および伴奏法の両面からそれぞれアンケートを実施し、その結果より、望ましい歌唱指導法と教員の伴奏法について提示し、教職課程のおける教員養成にどのような知識・技術が求められているのかを考査した。

1　歌唱指導法

調査対象の楽曲としては、中学校学習指導要領の共通歌唱教材でもある《花の街》（斉唱）、および中学校音楽科の教科書でよく取り上げられる《カリブ夢の旅》（合唱）の２曲を選び、これについて教職課程の講義を学んでいる学生に対して、提示した２曲の指導に際し必要な、教材研究、表現方法、歌唱指導、模範歌唱について学生の理解と成熟度を調査し、設問に対する回答を研究・考査し、今後学生に対し必要となる指導例の一部を挙げた。

1－1　アンケートの概要

アンケートの対象、実施日等は以下の通りである。

対　象：洗足学園音楽大学大学１年～２年「教職伴奏法」「即興伴奏法」「合唱活動指導法 1･2」「合唱実習 1・2」教職課程履修者 50 名

実施日：平成 29 年５月～６月

アンケートは、1）教材研究に関する基本的知識、2）曲に対する理解力およびそれを他者に伝える力、3）発声法・歌唱法について曲に応じたアドバイス法およびそれを実践するための表現力、について学生の理解・意識を調査するため、以下の４つの設問を設定し、自由記述式により、２曲それぞれに回答

を求めた。

アンケート実施当たっては、事前に《花の街》を斉唱で、《カリブ夢の旅》を合唱で、それぞれ歌唱し、その後アンケートを実施した。

設問１　この曲を指導するに当たり事前に何を調べますか
設問２　この曲はどんな曲とあなたは説明しますか
設問３　安定した響きの持続が求められる時、どのようにアドバイスしますか
設問４　模範歌唱をする時、何を注意して歌いますか

1－2　アンケートの結果

４つの設問に対する回答を枠内に示す。なお、各設問に複数回答・重複回答があり、各人言語表現に多少違いあるが、まとめた（括弧内の数字は回答人数）。

［設問 1］この曲を指導するに当たり事前に何を調べますか

	回答
花の街	▶作曲の経緯（49）　▶言葉の抑揚と旋律の関わりを調べる（22） ▶何処を中心に指導するか教材研究（35）　▶鼻濁音（18）　▶作曲者・作詞者について（50） ▶時代背景・歌詞が表す意味や前奏（26）　▶曲の背景について調べる（48） ▶３番まであるが、メロディが同じであるためそれぞれどのように歌うか(16)　▶コード進行(8) ▶曲の成り立ち（作詞･作曲の時期等）（47）　▶《花の街》が何処をモチーフにしているか（6） ▶情景・テンポ・拍・調性等（36）　▶情景をイメージするのはどうしたらよいか（36）
カリブ夢の旅	▶歌詞が気になるので調べる（キャプテン・キッド、カリブに眠る夢）(38) ▶テンポが変わった時の表現法（47）　▶アリナーゼ（3） ▶曲想や速さに対する指示の意を調べ、この曲の流れを理解する（39） ▶曲の成り立ち、歌詞の内容（49）　▶作詞者がどんな気持ちを込めて作詞したか（2） ▶それぞれのパートの音程（臨時記号等）リズム、強弱（22） ▶カリブに関するイメージ､伴奏やテンポの変化等楽曲分析（35）　▶盛り上がった所の歌い方（6）

［設問 2］この曲はどんな曲とあなたは説明しますか

	回答
花の街	▶それぞれの場面の景色を少し幼い自分が実際に見ている（48） ▶景色や模様や色を思い浮かべるとすごく好きになれると思う（1） ▶言葉のロマンチックな感じを味わう（1）

カリブ夢の旅	▶雰囲気が途中でガラッと変わる部分があり、ハーモニーがきれいな曲（49） ▶キャプテン・キッド、別名ウィリアム・キッドの伝説をモチーフにカリブ海への冒険の旅に夢を馳せた曲（48） ▶夢の旅の曲、とても明るくアップテンポな曲（48） ▶テンポが変わる元気な曲である、速さによって歌い方を変えると楽しい（10） ▶リズムが特徴的な曲なので途中までゆるやかな曲想とそこから盛り上がる様子とアップテンポな部分の曲想との違いを考えて歌う（7）　▶若者が旅立つ前向きな歌（1） ▶大きく二つの部分に分けられている、冒険への期待を込めて（5） ▶皆で夢を見つけよう！と元気に歌う曲、協力することの大切さに気付かせてくれる曲（14） ▶希望に満ち溢れる曲（40）　▶希望溢れる明るい曲（2） ▶海の果てにある夢を見つけに船に乗って冒険の旅に出る少年のワクワクした気持ちを表した曲（2） ▶夢を追いかける事の大切さが伝わる、前半は優雅な海の背景があるが、後半はアクティブな夢への情熱が込められた曲（1）

設問３については、２曲共通の回答が多いため、まとめて表記した。

［設問３］安定した響きの持続が求められる時、どのようにアドバイスしますか

	回答
花の街 カリブ夢の旅	▶手でフレーズを描くように歌わせると表情が付きやすくなる（3） ▶歌詞を読ませる、ブレスの位置確認、歌詞の分節を感じて歌う（2） ▶息の使い方、身体の土台をしっかりする、口の中の使い方（16） ▶姿勢を正しくして大きく口をあける（47） ▶フレーズを大きい山のようにイメージして歌う（5） ▶拍に合わせて頭を振らない（2） ▶お腹を良く支えて縦に口を開く低音でもしっかりと支える、息をたくさん出す（37） ▶身体全体で響きを感じる。遠くの人に伝わる様に優しく、自分だけでなく周りの声も聞きながら歌う（48） ▶音を伸ばす時広がるように（48） ▶フレーズ感を意識し声を遠くまで飛ばす、腹式呼吸を使い身体に余計な力を入れず歌う（48） ▶ビートを感じながらリズミカルに（10） ▶音が震えないようにお腹で支える、重心を若干前に置き足の爪で踏ん張る、息を深く吸い音を前に飛ばすイメージを待つ（1） ▶お腹で支え、口の開け方、周りの人と響きを揃えるように（20） ▶鼻歌のように流れるように声を出す、ブレスの前に構えずにフレーズ感を大切にする（1） ▶息を流すため深呼吸 腹式呼吸の練習をする（16）

設問４　模範歌唱をする時、何を注意して歌いますか

	回答
花の街	▶歌い過ぎない、素直な軽い声で歌いたい、歌詞の素朴な良さを出したい（49） ▶強弱、生徒の目を見て歌う（1）　▶感情の込め方、拍の入り方、フレーズ感（49） ▶言葉の一語一語をはっきり歌う（3） ▶言葉に気持ちを込めて、大切丁寧に、春の様子が浮かぶよう、美しい日本の情景が伝わるよう意識して歌う（49）▶フレーズ感、旋律の変化（10）　▶歌詞をはっきり（子音、鼻濁音等）、音色を理想と現実で変化させる（4） ▶團先生の曲なので上行形をたっぷりと歌い伴奏でてんぽをあおりやすいので気をつける（1） ▶言葉をはっきりと発音し1、2、3番と雰囲気を変えて演奏する（7）　▶穏やかに歌う事（1） ▶歌詞の意味を理解して景色や感情を想像して歌う、特に１．２．３番と表情を変える、同じ言葉の繰り返す時に歌い方を変える（1）　▶風が吹いている様に歌う横流れの曲だと思って欲しいので（1）
カリブ夢の旅	▶キャやキの発音がきつくならない様に、♩＝ 108 からをよく練習する（49） ▶強弱、雰囲気か変わる部分の変化、楽しそうに歌う（50） ▶フレーズ感、強弱、テンポ、テンポが変わった時の歌い方（49） ▶強弱は誰にもわかるようにはっきり、テンポが変わり速くなってもテンポをキープ出来るように（45） ▶リズム言葉を大切に歌う、曲想の対比に気をつける、最後は速いリズムになる為、しっかりと口を動かしてどのような歌詞なのかしっかりと伝わるようにする（1） ▶前半のなだらかなフレーズ感と後半のハキハキしたフレーズ感の対比（3） ▶主旋律がどちらなのか伝わりやすく歌う、歌詞をはっきり（3） ▶前半はたっぷりと歌い後半はリズミカルに歌い、言葉を明確に発音するが細かいリズムの時はより注意する（3） ▶ 16 分音符の箇所の発音の仕方に注意、accel 後のテンポを一定にする、綺麗な声（2） ▶楽しそうに歌う事、リズムの速さの違い（10） ▶フレーズの始めの言葉をはっきりと、前半と後半の雰囲気をはっきりと切り換える（1） ▶フレーズの繋ぎ目を大切に、歌詞の意味や情景が伝わるようにイメージを持つ事に注意します（1） ▶歌い始めのブレスは前奏２小節目始めから行い、リズム合わせて大きくブレスをし、出だしのカリブの歌詞の準備を同時に行いレガートと歌い出す（1） ▶「カリブにねむる」と「ゆめたち」の間でブレスを取る事になっている。歌詞をレガートで繋げたくない指示であるので「ゆめ」をはっきりと発音し２つのフレーズに違いを出す（1） ▶「めをさませ」はＰピアノであるが歌詞をはっきり鋭く歌い緊張感を表現し「ときがきた」を明るくはっきりと歌い喜びを表現する（1） ▶「ル」の女声パートはレガートで歌い、歌詞の男性パートより大きくならないよう注意する（10）

カリブ夢の旅	▶女声パートは男声より低い音域であり男声が歌いやすい音域でHが女声に出でくるよう響きと音域が考慮されている（1） ▶「ぼくはゆく　なによりも」では力強く途中力が弱まることなく歌い切る（1） ▶「きみのゆめ　みつけたい」ここでは対象が「きみ」に変わっているので相手を意識して問いかける様に歌う（1）

1－3 アンケートの回答に対する分析

以上の回答について、設問毎に分析する。

［設問1］この曲を指導するに当たり事前に何を調べますか

これについては2曲合わせた回答を対象とする。ここから学生が以下の点が挙げたことが注目される。

▶時代背景、作曲の経緯、作詞者、曲の背景

▶テンポやリズムといったアリナーゼ、言葉の抑揚等

これらの回答から、基本的なポイントについて全ての学生が良く理解していることが見て取れる。また曲を分析し、それを正しく理解して指導に役立て、さらに歌唱表現にいかに繋げていくかが重要であることがわかる。学習指導要領でも〔共通事項〕として音楽の構成要素に注目することが挙げられ、学生もその点を理解していることの反映とも言えよう。

［設問2］この曲はどんな曲であるとあなたは説明しますか

2曲の各々について学生が以下の2点について指摘していることが注目される。

《花の街》

▶美しい街、日本特有の自然の豊かさ、戦後にできた曲で理想の街を歌っている

▶一番二番は理想の街で3番は現実を描写している

《カリブ夢の旅》

▶眠りから目覚めて冒険に向かう歌、夢に向かって行く

▶海賊船長ウィリアム、キッドの伝説をモチーフにした歌

これらから、実際の指導では、単に「これを歌います」ではなく、「この曲はいかに楽しいのか、美しいのか、意味深い内容なのか」といった点について、興味と好奇心を抱く説明が必要であることを学生が意識していることがわかる。

指導に当たっては、《花の街》では「季節は？」「七色の谷とは？」「流れるリボンの長さは？」「リボンの色が七色なの？」等、具体的な情景が想像できるやりとりが必要である。そのためにも指導する側が、どのように歌わせたいのか指導の目標を設定しそこに向けての道筋をイメージできる説明が必要である。

一方、《カリブ夢の旅》では題名から想像できることが漠然としている。夢の旅に行きたい、そこに何があるのか知りたい等、想像が広がる説明が必要で素敵な場所であること、そこには新しい輝く未来があるという高揚感を感じさせる説明が必要である。また、この曲は途中でテンポが速くなるが単に勢

いが付くのではなく、それが船出なのか目的地に着くところなのか目的地は見えているのか見えない場所を想像しているのか等、沢山の情報を提供し考える想像できるよう歌詞に対してテンポに関しての興味を持たせることである。

歌う前に以上のようなやり取りをし、曲に対する共通の意識を持つことも重要である。また一度歌った後から、授業内のそのやり取りを行うことで２回目歌った時の変化を感じ取る方法もある。

［設問３］安定した響きの持続が求められる時、どのようなアドバイスをしますか

この設問では両曲共通での回答が多かったので、まとめて扱う。

▶息の使い方、姿勢、腹筋を使う、体全体で響きを感じる、遠くの人に届くように

以上の点を指摘した学生が多い。これらはどれも大切なことであるが、かなりの訓練と技術の習得が必要である。

まず、声の響きをどう作るか、指導者が模範を示し、響きのある声を聴かせ実感させることがとても重要である。けして大きな声が必要なわけではなく、響きを感じることの出来る声が必要であり、何が違い、何が足りないか、具体的に指摘し、その解決方法を説明することが求められる。

発声指導については以下のような点が挙げられる。

①声を安定させるための支え

この支えが何処にあるかについては、お腹と答える者が多いと思う。またお腹から声を出して、と教えられた者も多いと思うが、勿論お腹からは声は出ない。したがって、方法の一つとしてロングトーンがあげられる。まず、特に説明もせずに音程を与え、ロングトーンさせる。しばらくして辛くなってくるとお腹に自然と力が入ってくる。その力が入った部分が支えとなり歌い出しのブレスからきちんと支えとして意識することが必要になる。このため、ブレスも正しい腹式呼吸は当然欠かせられない。声帯で鳴った声をお腹まで響かせることを示す必要がある。

②頭声

頭声について、頭蓋骨を響かせてと説明してもなかなか伝わらないので、お腹だけを使った声、頭声だけの声、そしてその両方を足した声と順を追って説明していくことで理解がしやすくなる。どちらかでなく、両方が必要だと認識することが重要である。自分に聞こえるように喉声で歌っていることがありますが自身が感じる声と人に聴かせる声とでは違うことも知る必要がある。カラオケにはエコー機能があり、機械処理により響を作り上げられるが、そのエコー機能を正しい姿勢で、お腹を使い加え頭声を意識し、腹式呼吸で支えを意識し、声を出し、響きを求めていく。

③口の開き方

六

口の開き方については、縦に開く、口の中に卵が入った感じ、という説明を受けたことがある者が多かったが、響きとは連想しづらく感じる。そこで良い響きを連想できる場所としてコンサートホールを提示する。コンサートホールで最も高いところが天井である。響きをより良くするためには口の中の天井、つまり柔口蓋広げる必要がある。よく笑顔で笑った顔で等と説明することがあるが、笑った声が何故明るく良く響くのか、それは頬骨が上がり、それに伴って柔口蓋が広がり、響きの出やすい状況が出

来上がっているからである。それに加えて支えとなる腹筋にも力が入り、響のある声を作り出す状況が出来上がる。この行為は無意識で行っている行為であるため、歌唱となった時、この全てを歌唱が終わるまで意識して持続させなければならない。

以上の３点について、一つ一つ積み重ねて行く歌唱指導を持続していかなければならない。そして目指すところは常に豊かで響きのある声を無意識に自然と歌唱する状態である。そのためにも指導者を目指す者は正しい歌唱方法をきちんと学び、実践でき、それを相手に合わせて表現方法替え指導出来るスキルを習得することが重要である。

［設問４］模範歌唱をする時、何を注意して歌いますか。

各々の曲について、以下のような回答例が注目される。

《花の街》

▶歌い過ぎない、素直で軽い声

▶言葉を一文字一文字はっきり歌う

▶春の風景を思い浮かべながら、繊細で丁寧に歌う

《カリブの夢の旅》

▶前半はたっぷり歌い後半はリズミカルに歌う

▶フレーズ感・強弱・テンポ

▶速くなっても歌詞がしっかりと伝わるように

以上の回答から、模範歌唱では曲の情感をフレーズに合わせて表現し、強弱はもちろん、クレッシェンド、クレッシェンドといった変化、ブレス位置、音程と注意をはらう必要がある。そこから目指すべき目標を提示し指導を進めることが大切である。

《花の街》では設問２で書いたように、歌詞にフレーズ毎に想像できる情景の描写が書かれているが、その情景はけして一つではない。いろいろな情景を設定や提示することにより、曲の解釈も表現に大きな変化をもたらすことが出来る。それは場所であり時間であり物なのか人なのか、近くか遠くか、何人いるのか、だんだん増えていくのか、広がっていくのか、減っていくのか、狭くなっていくのか等、限りない選択肢が出でくる。その選択肢の提示により曲対する興味を引き出し想像と表現を一致させて歌唱指導を進めていくことも重要な要素の一つである。

また、《花の街》には歌唱の始まる前に16小節の前奏がある。この前奏には８分音符から16分音符、３連音符まで存在している。テンポに合わせていくだけでなくフレーズの伸縮（rubato）を使いより歌唱表現にも効果的な影響を与えることが出来る。前に与えた、想像と表現の一致から得たイメージを前奏からも感じ取る事が出来る演奏を目指して欲しい。

七

1－4　歌詞から導き出す表現法

今回の回答から歌詞から導き出す表現方法に関して非常に乏しいと感じた。歌詞の解釈は重要であり、ここでは《花の街》の歌詞を使い、歌詞から導き出す歌唱表現の指導法例を挙げて紹介したい。

［１番］

「なないろのたにをこえて　ながれていく　かぜのリボン」

たっぷりのブレスから柔らかくそして前に広がる情景を想像できる様に歌って欲しい。

「わになって　わになって　かけていったよ」

同じ歌詞を２回歌うので２回目の「わになって」が１回目より広がって欲しい。また「かけていったよ」ではより遠くに伝える様に歌う。ここのフレーズでは途中休符でのブレスが同じ呼吸にはならない。休符毎に深く大きなブレスとし、表現の大きさを表していくことが大切である。

「はるよ　はるよと　かけていったよ」

ここは見送る様な気持ちで遠くを感じて歌ってほしい。

[2 番]

「うつくしいうみをみたよ　ながれていく　はなのまちよ」

この部分は過去に見た美しい情景を目の前にいる人に伝える様に歌って欲しい。

「わになって　わになって　おどっていたよ」

ここでは１番の時よりも多く人がいるように歌って欲しい。

「はるよ　はるよと　おどっていたよ」

ここは、楽しかった、嬉しかったが伝わる様に歌って欲しい。

[3 番]

「すみれいろしてたまどで　ないていたよ　まちのかどで」

ここで、アンケート１で問うたように、この曲の作詞、作曲への経緯が必要となる。戦後の荒廃を思い歌って欲しい。ただ悲しいのではなく、はっきりとした発音での歌唱は大切である

「わになって　わになって　はるのゆうぐれ」

この部分では、もうそこ（荒廃した街）には戻らないという決意を込めて歌って欲しい。

「ひとりさびしく　ないていたよ」

一人で泣いている人を慰めるように歌って欲しい。

このようにフレーズ毎に情景設定することにより表現方法を探しやすくなる。イメージを明確にすることが重要である。大きく曲をとらえることも大切であるが細かく分析して曲想、情感、歌詞解釈等を一致させていくのも大切な方法である。

2　伴奏法

八

2－1 はじめに

小中高の学習指導要領において、「伴奏」に関する具体的な記述はない。「伴奏」力は現場の音楽教師なら当然あるというのが前提なのであろう。では、伴奏技術を教授する大学ではどうかというと、学習指導要領はなく、代わりに大学設置基準がある。組織・編制・施設・設備等の記述はあるが、それぞれの分野での指導要領なるものは存在しない。

授業関連の記述においては以下のように記載されている。

第十九条 大学は、当該大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

（大学設置基準　第六章 教育課程「教育課程の編成方針」より）

上記のように専門の技術・幅広い教養・総合的な判断力を培い豊かな人間性を育むことを目指せば、自由に授業を編成出来るのだ。我々大学の教員は以上のようなことを踏まえ、心して大学教育に関わらなければならないことを、改めて考慮されるべきであろう。

2-2 伴奏の役割

伴奏は広域的な意として声楽曲や器楽曲の主旋律に対応した副次的な役割を持ち、特に独唱・独奏の場合、和声的、拍・リズム的な充足を満たす、大きな役割を担っていると言える。ここでは伴奏はピアノで行うことを前提で論じていく。

伴奏者は楽譜に書いてある音符を弾き熟すことは勿論のこと、それらを要約する力を要求される。また、伴奏譜が存在しない楽曲も多々あり、和音付（和声付）する能力も要求される。メロディの一音一音には、複数の和音を付けることが可能ではあるが、どの和音を使用するかで曲の表情が異なる。伴奏者の持つ和声感、和声進行の知識、音楽的経験、好み、センス様々な要素が絡み合う。

音楽の教員を目指す大学生に、教育現場等で直面するであろう伴奏技術に関する事柄について、アンケートを約50人に実施した。そこから見えてくるものは何か、そして今、何が必要なのか、どうすれば技術を取得できるか、自身の伴奏技術に関するアプローチ法も踏まえながら論じていく。

2-3 アンケートの概要

アンケートの対象、実施日等は以下の通りである。

対　象：洗足学園音楽大学学生　1年～4年「教職伴奏法」「即興伴奏法」「合唱活動指導法 1･2」「合唱実習 1・2」教職課程履修者50名

実施日：平成29年5月～6月

アンケート実施に当たり、以下の5つの観点を設けた。

1) 学生各々のピアノ経験は様々であろうが、ピアノ独奏とどう意識を変えているか
2) 伴奏を弾いたことのある学生は、その現場で何を求められた経験をしてきたか
3) 楽譜がないという状況では、どんな勉強をすべきと考えているか
4) 指導しながらの伴奏は、どんな技術を要すると考えているか
5) 全体的に歌唱の見地からの理解と伴奏との融合で必要と思われること。

以上の観点から、自由記述式により、以下の5つの設問について回答を求めた。

設問１　あなたが歌の伴奏を弾く時、どのような点に留意しますか
設問２　今までの経験の中で、伴奏を弾く際に困った状況になったことはありますか
設問３　伴奏譜がない曲を伴奏しなければならなくなった時、どんな知識技術が必要と思いますか
設問４　子どもや生徒たち、あるいは一般の人たちに初見の歌曲を教授する時に、どのような伴奏をしますか
設問５　ある一つの歌唱曲を伴奏するには、どのような勉強が必要と思いますか

2－4 アンケートの結果と考察

５つの設問に対する回答を枠内に示す。なお、各設問に複数回答・重複回答があり、各人言語表現に多少違いあるが、一括した（括弧内の数字は回答人数）。

［設問１］　あなたが歌の伴奏を弾く時、どのような点に留意しますか

回答
▶テンポをキープする（特にブレスをするところ、歌い易いテンポで）（10）
▶歌とピアノの音量のバランスを考える（2）　▶強弱をきちんとつける（1）▶歌のパートを弾けるようにしておく（1）　▶旋律が重なるところは強調する（1）
▶一人で走らないように気を付ける（1）　▶止らないようにする（5）　▶歌に寄り添う（11）
▶盛り上げるところは盛り上げる（1）　▶伴奏形態の変化を意識する（2）
▶ウラ拍で打つ時や付点のリズムを曖昧にしない（4）
▶表情豊かに想いが伝わるように（4）特に和音ひとつで曲の雰囲気を出すときの音の出し方（2）
▶暗譜をして、指揮や歌い手を見るようにする（5）
▶伴奏者も歌うように心がける（1）　▶ベースをしっかり出す（1）
▶メロディを頭に浮かべて（2）　▶歌い始めのアインザッツをしっかり（2）
▶今弾いている次の和音を読む（1）

［設問２］今までの経験の中で、伴奏を弾く際に困った状況になったことはありますか

回答
▶コードネームでの伴奏（2）　▶パートの音だけ拾って（2声・3声を弾く）（4）
▶伴奏をしながら主旋律を弾く（4）　▶テンポが不安定（5）
▶初見（8）　▶前奏・後奏の弾き方（1）　▶移調してほしいと言われた（7）
▶和音の音量がわからない（2）　▶指揮なしでのタイミング（3）

［設問３］伴奏譜がない曲を伴奏しなければならなくなった時、どんな知識技術が必要と思いますか

回答
▶コードの知識（43）　▶メロディにおけるコード設定の際、コードトーン以外のコードの知識（13） ▶伴奏型の知識（9）　▶ソルフェージュ能力（5）　▶ベース進行の工夫（2） ▶前奏・後奏の作り方の知識（1）　▶即興の能力（4）　▶対位法的な技術（1）

［設問４］子どもや生徒たち、あるいは一般の人たちに初見の歌曲を教授する時に、どのような伴奏をしますか

回答
▶左手ベース右手メロディ、あるいは左手簡易コードのメロディ奏（32） ▶メロディを弾きながら一緒に歌う（2）　▶簡易的なコード進行を弾く（6） ▶拍が分かり易いように（4）　▶テンポをゆっくり（4）　▶音量小さめに弾く（3） ▶部分練習（2）　▶ていねいに（1）

［設問５］１つの歌唱曲を伴奏するには、どのような勉強が必要と思われますか

回答
▶コードを読む（5）　▶伴奏を簡略化（コードに表す力）（1） ▶曲の構成（楽曲分析）（11）　▶基礎的な演奏技術（5）　▶全体の理解（10） ▶パート別の譜読み（2）　▶歌詞に合った伴奏、歌い手の呼吸読み取り（4） ▶弾き歌いができるように（3）　▶曲の背景（11）　▶歌と伴奏とのからみ（3）　▶移調する（1） ▶どんな楽器の編成のイメージなのか考えることによって、ペダルの使い方、フレーズの作り方が工夫できる。例えば曲の伴奏がギターのイメージならペダル少なめでマルカート気味に、弦楽器なら長い息でのボーイングを考えフレージングする（1）

アンケート結果から、どれも伴奏をするうえで大切な事項ばかりではあるが、５つの設問の中で特に多くの学生たちが必要と感じている知識・技術は、［設問３］のコードの知識と［設問４］のメロディ奏の技術であることが伺える。50名の学生たち各々の音楽経験やピアノの技術力は様々であろうが、当面、我々大学側が彼らに対し教授することが有効と思われる事項であることは間違えないと言える。

前述したように次の項ではアンケート結果で特に多かった項目、コードの知識とメロディ奏について、以下に自身のアプローチ法を記述する。

2－5 伴奏法指導例

2－5－1 コードの教授の実際

では、どのように教えていけばいいかということになるが方法は様々である。巷にはコードに関する本が多々ありアプローチも様々である。ただ、ドミソ＝C、レファ♯ラ＝D、ミソシ＝Em等、紙の上だけではなかなか身につかない。知識に経験が伴って初めて理解することができる。

本学の伴奏関係の授業の中に「教職伴奏法」（教職履修者・半期）、「即興伴奏法」（音楽教育コース・通年）

がある。両者とも導入は同一である。通年では勿論、より深くより広く丁寧に授業を行えるが、半期でも学生の努力次第でコード知識が無い学生も、ある程度まで弾くことが出来るようになる。

2－5－2 導入

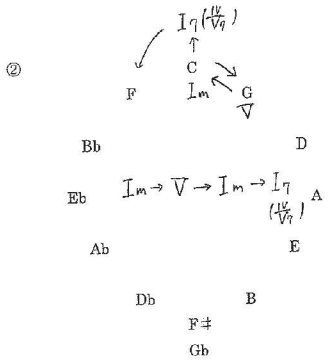
① 基本的な長三和音と属七のコードネームの構造を理解させた後に次の表を使ってトレーニングさせる。以下の五度圏を用い一周全てつなげて弾く。その際、特に３和音は転回形を使い、できるだけ手近なところでカデンツを弾いていく。Ｖ７も転回形を使った方が、よりなめらかなカデンツができる。

[弾き方]　C―G―C―C7　→　F―C―F―F7　→　Bb―F―・・・

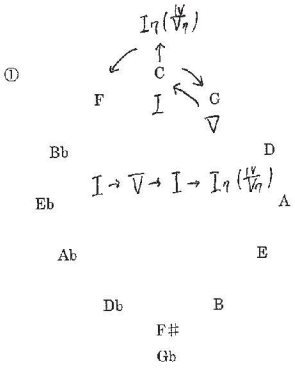
② 今度は短三和音をⅠ度として五度圏を用い同様に弾く。

[弾き方]　Cm―G―Cm―C7　→　Fm―C―Fm―F7　→　Bbm―F―・・・

①



②



③ 次に短七の和音の理解から、次のパターンも生まれる。弾き方としては一連のⅡ―Ⅴ―Ⅰの動きで。

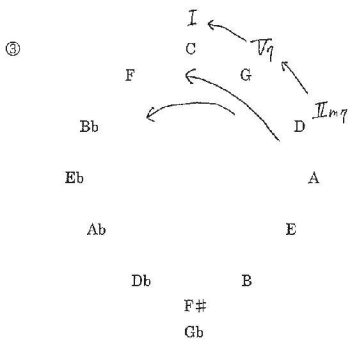
[弾き方]　Dm7―G7―C（maj7）　Gm7―C7―F（maj7）・・・

この動きを two-five motion　という

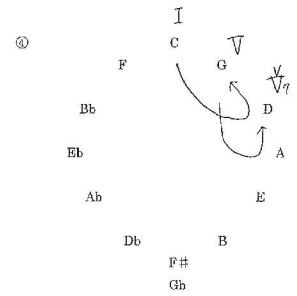
④　五度圏の♯側に進むと以下のパターンも有効である。

[弾き方]　C―D7―G　G―A7―D　D―　E7―A・・・

③



④



（「教職伴奏法・即興伴奏法」谷川マユコ自作授業資料より）

世の中の多くの曲は３コードで出来ていると一般的に言われているが、その言葉を素直に受け取れば、このトレーニングはかなり有効な方法であると思われる。

条件として左手はベース音、右手は和音を弾く。次のカデンツを弾く時、できるだけ手近な和音に移る。

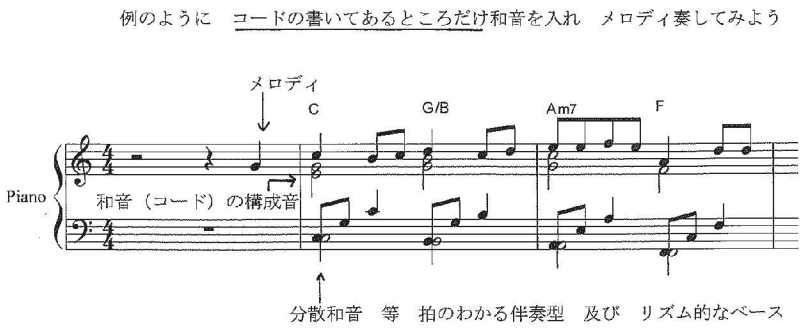
弾き始めの和音を他の転回から始め、連続する各々の和音も転回されることからまた新たな響きが生まれる。

①と②の方法は24調のＩ－Ｖ－Ｉ（Ｉｍ－Ｖ－Ｉｍ）と各々からⅣ度調に転調までのパターンが組み込まれ、③のⅡｍ７－Ｖ(７)－Ｉは一般的な終止の形を各調で弾く。また④はＶ度調のＶ度へ進行し、次に進むパターンである。どれも１曲の中に良く使われる和音進行で、且つ様々な調で弾きこなせる様に提示している。

導入は以上のようなパターンを練習すれば、自然と手が和音の形になっていく。また、和音の転回形がさわれれば、やがてメロディ奏にも繋がっていく。

2-5-2 メロディ奏の実際

コード伴奏授業展開において、最初は左手ベースで右手和音の両手伴奏を徹底するが、ある程度慣れればメロディ奏に移ることができる。和音の転回形を弾くことがなぜ必要かというと、右手でメロディを弾くことが必須で左はベースを弾けば、ハーモニーはおのずとどちらかの手で表現していかなければならない。その時右手でメロディを弾きながら、コードの書いてあるところにメロディの音以外のコードの構成音を押さえれば、そこにハーモニーが生まれる。その瞬間がコードの転回を弾くことになる。コードの転回形を練習していれば、すぐにメロディ奏ができるのである。



「教職伴奏法―コード伴奏法：メロディ奏」（谷川マユコ自作授業資料より）

以上のように、学生アンケート結果から、コード伴奏法・メロディ奏の伴奏技術取得のための一つのアプローチを論じてきたが、どちらも必須の事項であることを留めおきたい。

3　指導の実例

ここでは、これまでのアンケートの分析・考察を踏まえ、実際の歌唱教材を取り上げ、指導の実例を提示する。

「1　歌唱指導法」のアンケートにも提示した《カリブ夢の旅》の譜例を一部使用し、授業で教師が行うべき手順、方法の一例を示す。



作詞 平野祐香理 作曲 橋本祥路《カリブ夢の旅》

教育芸術社『平成 28 年度用 中学生の音楽・中学生の器楽 1 指導書　研究編』pp.32-33

① 1 小節―2 小節

歌い始めのブレスは前奏 2 小節目始めから行いリズム合わせて大きくブレスをし、出だしのカリブの歌詞の準備を同時に行いレガートで歌い出す。

② 3小節

「カリブにねむる」と「ゆめたち」の間でブレスを取ることになっている。歌詞をレガートで繋げたくない指示であるので「ゆめ」をはっきりと発音し2つのフレーズに違いを出す。

「めをさませ」はPピアノであるが、歌詞をはっきり鋭く歌い緊張感を表現し「ときがきた」を明るくはっきりと歌い喜びを表現する。

「ル」の女声パートはレガートで歌い、歌詞の男性パートより大きくならないよう注意する。

また女声パートは男声より低い音域であり男声が歌いやすい音域でHが女声に出でくるよう響きと音域が考慮されている。

「ぼくはゆく　なによりも」では力強く途中力が弱まるこよなく歌い切る。

「きみのゆめ　みつけたい」ここでは対象が「きみ」に変わっているので相手を意識して問いかける様に歌う。

③ 2小節～3小節

歌の出だしがunisonなので音が取りやすい。例のようにコード分析をしてメロディ奏の技術で音の方向性を示唆できる。

④ 6小節

メロディにおけるこの小節の和音は本来Ⅴ度（G7）に落ち着くが、直前に借用和音ⅳ度調Ⅳ度（Bb）を使用し、静かな流れの中にも希望に胸を膨らませている感じを意識すべきである。

⑤「ぼくはゆく～」

男性パートがメロディを担うにあたり、力強さを表現しているので、リズム的にも歯切れよくしかも1拍ずつテヌート、スタッカート、テヌートアクセント、スタッカートと表情が違う。加えてベースラインにも注目したい。A-G-F-Eと音階的に下降していることに留意すべきである。

おわりに

指導者を目指す学生には、多岐に亘る知識や技術が必要で、且つ、それらを統合し提示していく指導法を学ぶ必要がある。本論は歌唱指導もあるピアノ伴奏法の授業で活用出来る実践方法を提示した。例えば本学では教職ピアノ実習、合唱活動指導法、教職伴奏法、即興伴奏法等の授業が具体的に反映出来ると考える。伴奏指導に偏りがちであるが、実際は歌曲・合唱を扱っている関係で歌の見地から分析しなくては音楽的な指導ができない。教師はあらゆる手段を用い、理解を深める努力をしなければならない。大学教育の中の限られた時間で、それらを全て学生に教授するには課題が残る。

学生たちが日々の授業その他から経験を積み、多角的な視野を持ち独自の考えからまた新たな指導法を導き出せるよう、我々は常に研究していかなければならない。

引用文献

『平成28年度用 中学生の音楽・中学生の器楽1 指導書　研究編』東京：教育芸術社

石澤眞紀夫編著『2012年改訂版 中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法』東京：教育芸術社

インターネット資料

文部省「大学設置基準 第六章 教育課程「教育課程の編成方針」第19条」(昭和31年10月22日 文部省令第28号)
http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00000949.html
(平成29年7月19日アクセス)